

令和5年度 子どもの権利トークイベント

- 1 日 時 令和6年2月24日（土）8時30分～13時00分
- 2 場 所 青森市役所駅前庁舎1階 駅前スクエア
- 3 出席者 子ども会議委員10名、子どもサポーター2名、子どもの権利擁護委員3名、事務局4名、一般参加者4名
- 4 活動内容 子どもの権利トークイベント
- 5 開催概要

「子どもの権利」のさらなる周知のため、トークを通して楽しく学び、体験してもらおう子どもの権利トークイベントを開催しました。

はじめに

司会の高校生委員から、子どもの権利擁護委員の紹介とイベントの開催趣旨、タイムスケジュールなどの説明がありました。



アイスブレイク

次に、参加者の緊張をほぐすために、「煮干しラーメンを作ろう！」のアイスブレイクを行いました。制限時間である3分以内に1グループもできなかったため、少し時間を延長し、2グループが煮干しラーメンを作ることができました。

トークゲーム（ディベート）

ディベートの説明とルールの確認、そして委員が前回の会議でディベートの練習を行った「大切にしたいのは愛とお金どっち？」のテーマで実演を行いました。全員でディベートの流れを理解できたところで、テーマ決めを行いました。候補の4つのうち、「個性と協調性、大事にするのはどっち？」と「お金がある世界とない世界どっちが幸せ？」の2つに決まり、それぞれ自分が話したいと思うテーマに分かれました。



〈グループ① 個性と協調性、大事にするのはどっち？〉

個性派では、個性を大事にすることで、自分の特性や内面を生かせること、多様性の社会に近づくこと、ストレスが減り、自由に生きられることなどのメリットがあげられました。協調性派では、協調性を大事にすることで、人に合わせることができ、柔軟に意見を取り入れることができるなどがありました。質問タイムでは、個性を大事にしすぎると周りに迷惑がかかるのでは？や、協調性がない

から周りの人と敵対するのではなく、お互いの個性を受け入れることができたらいいのでは？などたくさんの意見が出ました。

最後に、沼田委員から「どちらもメリットデメリットをよく考えることができている、最終的にどっちも大事にした方がいいよねという意見に行きついていたとおり、時と場合によってどちらを大事にすべきなのかは変わってくると思う。みんなにはそこを考えて生活してほしいなと思いました。今回のディベートでは、グループのみんなが積極的に自分たちの意見を言っていた個性派の方が良かったと思う。」と講評をいただきました。



〈グループ② お金がある世界とない世界どっちが幸せ？〉

お金がある世界の方が幸せ、と考えている人が多かったので、子ども会議委員が自分から積極的に移動し、お金がない世界の方が幸せ、という立場から考えることになりました。

お金がある世界の方が幸せ、と考えたチームでは、お金があることで物の交換がスムーズになり、主体的ではなく客観的な価値を定めることで経済発展につながる、水道や光熱費などの公共料金の支払いも可能になり娯楽を楽しめるまでになった、という意見があげられました。

お金がない世界の方が幸せ、と考えたチームでは、お金があることでクレジットカードや借金などのトラブルになることも多い、主体的な価値感により交換することでお金よりも簡単に自分がほしいものが手に入ることがある、お金による貧富の差がなくなる、違法薬物などの悪いものも広がりづらくなる、という意見があげられました。

お互いのチームで質問し合い回答する中で「なるほど」と納得することも多く、お互いの意見を理解することができました。

小林委員から「子ども会議委員のメンバーが違う立場でトークゲームをやってみよう、と声を上げたのがとても良かった。お互いのチームでお金によるトラブルや争いなど、より具体的に考えられたことや、質問への回答について協力する体制が見られたことが素晴らしかった。ただ、お金がない世界チームの方が周りの人の話を聞く力が少し弱い部分があった。今回のトークゲームではお金がある世界が幸せチームの方が良かったと思う。」とコメントをいただきました。



フリートーク

休憩後、参加者全員で1つのテーマについて自由に話し合うフリートークを行いました。関谷委員をファシリテーターに、「絶対に必要だと思う教科はなに？」について話し合いました。必要だと思う教科とその理由を発表し、ほぼ全ての教科が挙がりました。反対に、いらぬと思う教科についても考えてみたところ、先ほど必要だと挙がっていた教科が、自分はいらぬと思うという意見がたくさん出ました。みんな考えることが違って、さまざまな意見を持っていることがわかりました。

身近で話しやすいテーマだったこともあり、時間ギリギリまでトークが盛り上がりました。最後に子どもの権利擁護委員それぞれから一言ずついただき、フリートークは終了となりました。



お楽しみコーナー

最後に、子どもの権利のクイズやワードビンゴ、「けんりはかせを探せ！」や的あてなどのお楽しみコーナーを行いました。それぞれのゲームで獲得したポイント数に応じて景品がもらえるもので、100ポイント以上取得できた人が多かったのが良かったです。クイズではクロスワードも取り入れたため、回答に時間がかかっている人もいました。



今年度のトークイベントでは、参加者が少なく、委員からももっと参加者がいればよかったという声もあがったため、参加者を増やすための取組を考え、来年度に活かしていきたいと思ひます。